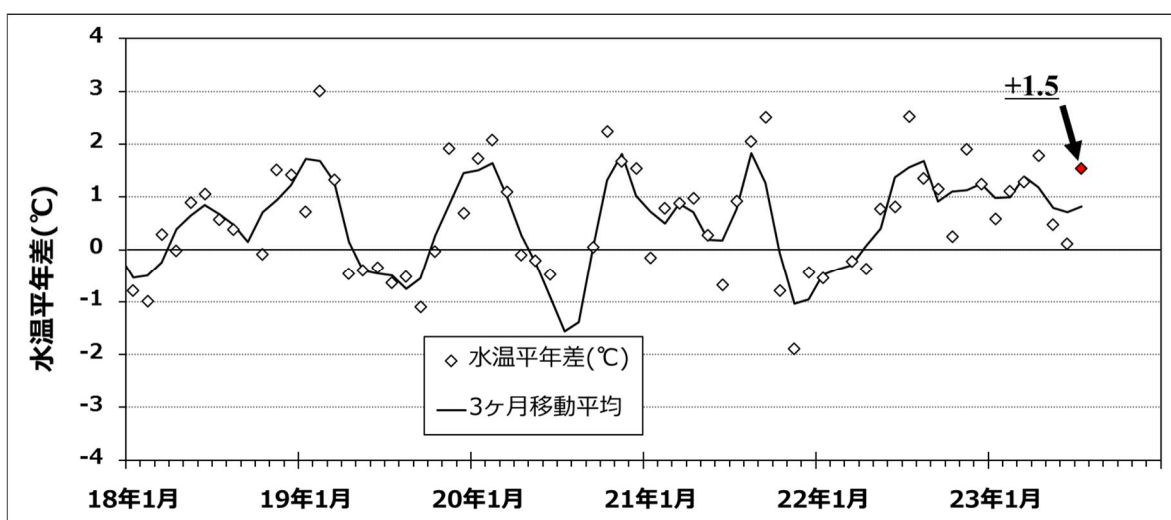


【水温の変動】

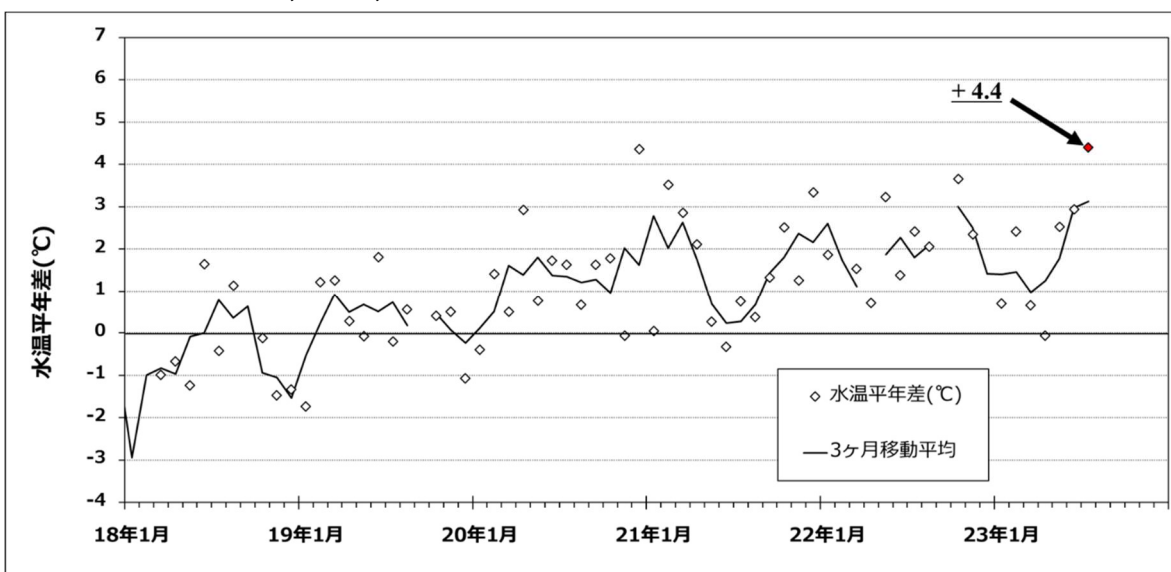
7月3、4日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

湾口部では平年差+1.5°Cで高めとなっています。沖合域の水深 200m では平年差+4.4°Cで極めて高めとなっています。7月4日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬沖北緯 30 度付近から大王崎沖北緯 34 度付近まで S 字状に北上する As 型流路となっています。現在、御前崎沖に接近する黒潮本流の影響により、遠州灘沖合は高温傾向となっています。

湾口部表層（A1）における水温平年差の変動



沖合域水深 200m（A4, A12, A19 の平均）における水温平年差の変動



※水温平年差は過去 10 年平均値との差

【渥美外海の海況】

海面水温は気温の上昇と日射によって海域全体で高く、かつ黒潮本流が接近している影響で沖へ向かうほど高温傾向となっています。一方で、ごく沿岸域では、黒潮の接近に伴って、密度勾配のバランスにより底層からの湧昇がみられます。その結果、沿岸部の水温は比較的低下しており、沿岸部（A1～10）でクロロフィル a 濃度が最も高くなっています。沿岸部で見られるクロロフィル a 濃度のピークは、黒潮系の暖水の下へ潜るように亜表層へ続いています。また、等温線が沖へ向けて高くなっていることから沖合は東向きの流れが強くなっていると考えられます。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

